

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：自民党信明会政務調査

2 調査報告概要

| | |
|---------------------|--|
| 調査者 会派名等 | <p>[会派名、調査者全員の氏名] 向山 憲稔(自民党信明会)</p> <p>調査には下記の議員も参加し、視察先の選定や調査研究等、あらゆる面で協働した。</p> <p>飯島 修(リベラル山梨) 志村 直毅(やまなし県民会議) 福井 太一(えがお夢)</p> |
| 調査内容 | <p>1 調査目的 山梨県教育委員会が推し進める小学校における25人学級の導入、さらなる拡大は全国の教育関係者から非常に高い評価を得ている。また、教職員の働き方改革に向けた「文書半減プロジェクト」など独自の施策を推し進めており、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するよう努めている。その一方で、不登校児童生徒数は、全国の傾向と同様に、本県でも毎年過去最多を更新し続け、大きな課題となっている。</p> <p>本県では、夜間中学、学びの多様化学校の設置に向けた検討は進められていないが、全国の先進地においては、多様な児童生徒の学びを保障するため、夜間中学や学びの多様化学校の設置、子ども主体の新たな授業などの取り組みが行われている。</p> <p>そこで、愛知県及び名古屋市における先進的かつ参考となる施策について視察、調査、意見交換を行い、本県が直面する教育課題の解決に資するために、調査研究を行う。</p> <p>2 調査テーマ</p> <ul style="list-style-type: none">・愛知県における中高一貫教育について・県立夜間中学の開校に向けて・名古屋市立夜間中学の開校に向けて・自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて <p>3 調査期間 令和 6年 1月29日～令和 6年 1月30日 (1泊 2日)</p> <p>4 調査地[海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 愛知県名古屋市</p> <p>5 その他</p> |

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

| | |
|--|--|
| <p>[調査テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県における中高一貫教育について ・県立夜間中学の開校に向けて | <p>[調査項目]</p> <p>中高一貫教育と夜間中学設置にむけた検討過程や設置構想について</p> <p>[選定理由]</p> <p>現在、本県では未設置の中学校夜間学級(いわゆる夜間中学)は17都道府県に44校が設置されており、文部科学省では、夜間中学が少なくとも各都道府県・指定都市に1校は設置されるよう、その設置を促進している。</p> <p>中高一貫教育については、本県では、県立身延高校において連携型中高一貫教育が行われている。</p> <p>多様化する教育ニーズに対応するためにも、設置の先進地を調査するために選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>調査で得られたことを、県教育委員会へ提言していく。</p> |
| <p>[調査テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立夜間中学の開校に向けて | <p>[調査項目]</p> <p>政令指定都市が設置する夜間中学の概要について</p> <p>[選定理由]</p> <p>現在、中学校夜間学級(いわゆる夜間中学)は17都道府県に44校が設置されており、文部科学省では、夜間中学が少なくとも各都道府県・指定都市に1校は設置されるよう、その設置を促進している。本県においては夜間中学については設置されていない。多様化する教育ニーズに対応するためにも、設置の先進地を調査するために選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>指定都市において設置される夜間中学の県設置との比較も含め、中核市である甲府市設置の可能性について、県教育委員会へ提言していく。</p> |
| <p>[調査テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて | <p>[調査項目]</p> <p>名古屋市立山吹小学校における自由進度学習について</p> <p>[選定理由]</p> <p>山梨県総合計画の「教育の充実」には「学校の授業に、子どもが学習状況を自分で判断して学習を進める「自由進度学習」などを導入し、従来の一斉授業による「教師主導の授業」から、「子ども主体の授業」への授業観の転換を進め」とある。Society5.0 社会を見据え新たな価値を創造する人材の育成に向け、現状の一斉授業スタイルから、子ども主体の授業への転換が求められている。将来的に、多様な他者と協働したり、自ら自己調整したりしながら学習を進めていく子ども主体の授業への転換が図られることにより、子ども一人ひとりの特性や関心・意欲に基づいた多様な学びを実現をめざす本県にとって、自由進度学習の先進校への視察は有益なものになると考え選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>本県が推進しようとする「自由進度学習」について、本県の実情に合ったものとなるように、県教育委員会へと提言する。</p> |

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

| 調査項目 | 都市名・施設名・担当者名及び選定理由 |
|-----------------------------------|--|
| <p>中高一貫教育と夜間中学設置にむけた検討過程や準備状況</p> | <p>[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 愛知県教育委員会 中高一貫教育室 室長 あいちの学び推進課 課長</p> <p>[選定理由] 愛知県教育委員会では、2021年12月に「県立高等学校再編将来構想」に基づき、県立高校の統合や新たなタイプの学校づくりなど、再編に向けた取り組みが進められてきた。 その一環として、中高一貫教育制度の導入について検討がなされ、25年4月に、愛知県の県立高で初となる併設型中高一貫校が設置される運びとなった。また、新しいタイプの県立夜間中学も25年4月に、夜間定時制をおく高校に設置が決まっている。 この設置までの検討過程や設置に向けた準備について調査するために選定した。</p> |
| <p>政令指定都市が設置する夜間中学の概要について</p> | <p>[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 名古屋市教育委員会 新しい学校推進室 室長 主任指導主事</p> <p>[選定理由] 名古屋市教育委員会では、25年4月に、私立夜間中学校の設置を予定している。設置・運営については有識者等会議で意見を聴取し、方針が策定された。それによると、名古屋市立笹島小中学校内に単独校として開設される。このため、夜間専任の学校長による学校運営がなされる。 設置に向けた検討過程や夜間中学での学びの方向性を調査するために選定した。</p> |
| <p>名古屋市立山吹小学校における自由進度学習について</p> | <p>[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 名古屋市立山吹小学校 校長 教頭</p> <p>[選定理由] 山吹小学校では、本県が推進しようとする自由進度学習を2020年度から実施している。「山吹セレクトタイム(YST)」と称し、子どもたちが自ら計画した時間割に沿って、一人一人が自分で学習を進めている。現行学習指導要領の趣旨を実現するため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る学校づくりについて調査するために選定した。</p> |

5 調査内容

○調査テーマ：(愛知県における中高一貫教育と県立夜間中学の開校に向けて)

| 調査項目 | 中高一貫教育と夜間中学設置にむけた検討過程や準備状況 | | |
|--------|--|-----|-------|
| 調査都市等 | 愛知県教育委員会 | 調査日 | 1月29日 |
| 調査結果概要 | <p>1 県立中高一貫校について 愛知県教育委員会では、2022年7月に、4つの県立高校を、県立中高一貫校の第一次導入校として決定し、2025年4月の開校に向けて準備を進めている。</p> <p>(1)併設中学校の学校名 ・愛知県立名和高等学校附属中学校 ・愛知県立半田高等学校附属中学校 ・愛知県立刈谷高等学校附属中学校 ・愛知県立津島高等学校附属中学校</p> <p>2 県立夜間中学について 愛知県教育委員会は、2023年1月に、夜間中学を設置することを決定した。</p> <p>(1)設置のねらい 日本語指導が必要な外国にルーツをもつ方や不登校などの理由により中学校に十分通えなかった方に対する日本語の基礎指導や義務教育段階の学び直しに対応する夜間中学を夜間定時制高校に設置する。 ・夜間定時制高校には外国にルーツをもつ生徒が多く通い、夜間の時間帯の学校運営の実績があることから、夜間中学を夜間定時制をおく高校に設置する。</p> <p>(2)開校時期・中学校名(設置校) 2025年4月開校 県立とよはし中学校(県立豊橋工科高等学校) 2026年4月開校 県立とよた中学校(県立豊田西高等学校) 2026年4月開校 県立こまき中学校(県立小牧高等学校) 2026年4月開校 県立いちのみや中学校(県立一宮高等学校)</p> <p>(3)対象生徒 愛知県内に住所または勤務地があり、義務教育の年齢(満15歳)を超えた人で、次のいずれかに該当する人 ・日本または海外で義務教育を修了していない人 ・不登校様々な事情によって十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人 ※外国籍の人も入学可能 ※住所に関わらず、どの学校も選択可能 ※不登校の中学生は、在籍する中学校に籍を置いたまま「学びの場」として通うことが可能。授業は、他の夜間中学の生徒と一緒に受ける。</p> | | |

○調査テーマ：(名古屋市立夜間中学の開校に向けて)

| 調査項目 | 政令指定都市が設置する夜間中学の概要について | | |
|--------|--|-----|-------|
| 調査都市等 | 名古屋市教育委員会 | 調査日 | 1月29日 |
| 調査結果概要 | <p>1 中学夜間学級について・・・名古屋市では、愛知県の補助事業として、愛知県教育・スポーツ振興財団が「中学夜間学級」を1973年に開校した。この「中学夜間学級」は、学校教育法に定める学校ではないが、世論のニーズに応えるため、在籍校を変えながら現在は、愛知県教育会館にて運営を継続している。</p> <p>(1)対象者 ・中学校を卒業していないこと ・義務教育終了年齢を超えていること ・愛知県内に在住していること ※募集人員に余裕があるときは、学び直しがしたい方も対象</p> <p>(2)年限と授業日 ・2年(籍を北山中学校に置き、同行の卒業証書を授与) ・各学年20人程度</p> <p>(3)運営 名古屋市の教員を12人派遣 週3日 18時から20時30分</p> <p>2 市立夜間中学校について・・・2021年の衆院予算委員会での総理大臣答弁を受け、名古屋市議会の本会議において「令和7年4月に設置できるよう取り組む」と方針を公表した。その後2023年に、私立夜間中学ニーズ調査アンケート、有識者会議を設置し、「名古屋市立夜間中学校設置基本計画(案)」を策定した。これに対するパブリックコメントと校名の募集を行い、2023年12月に「名古屋市立夜間中学設置基本計画」が策定され、校名を「名古屋市立なごやか中学校」とする案が選定された。</p> <p>○設置する市立夜間中学の概要 ・開校:令和7年4月 ・設置場所:名古屋市立笹島小中学校内 ・設置形態:単独校として開設(夜間専任の学校長による学校運営体制) ・入学対象 学齢期を過ぎた方で、次のいずれかを満たす方 ○様々な理由により義務教育を終了できなかった方 ○本国で義務教育を修了していない外国籍の方 ○不登校などの事情により、義務教育が十分に受けられなかった方 ……原則、名古屋市在住の方とするが、他市町村からの受け入れについては調整。 ・不登校支援 定員の範囲内で夜間中学で学ぶことを検討。席は在籍校に残し、出席扱いとする。</p> | | |

○調査テーマ：(自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて)

| 調査項目 | 名古屋市立山吹小学校における自由進度学習について | | |
|--------|--|-----|-------|
| 調査都市等 | 名古屋市立山吹小学校 | 調査日 | 1月30日 |
| 調査結果概要 | <p>従来の一斉授業に対応できない子に対して、いかなる公立学校でもできる授業を提供しようとの考えのもと、山吹小学校では授業改善を図ってきた。中央教育審議会の答申では、「令和の日本型学校教育」として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を一体的に充実させる必要があると述べられている。これは、山吹小学校が目指す「夢中になって目を輝かせる子どもたち」を育てることにつながると考えている。</p> <p>YST(山吹セレクトタイム)といわれる学習スタイルは、児童らは週間計画に基づいて学びたい教科、使いたい教材、誰と学ぶかなどを選択する。教師は児童一人一人の進度を把握し、サポートに徹する。イェナプランで「ブロックアワー」と呼ばれる時間を元にしたもので、週に5-12こまほどある。自分の学びに責任を持たせること、それが主体性につながっていると分析している。イェナプランの手法をすべて取り入れているのではなく、その考えを取り入れた、山吹小独自の学習スタイルである。</p> <p>授業参観では、子どもたちが自ら立てた学習計画のもと、それぞれの進度で、多様な解決方法を選択し、課題に取り組む姿が見られた。</p> <p>学校長が挙げた課題は、教職員の負担と意識改革、保護者負担の2点であった。</p> | | |

○参加者の所感及び調査結果の活用方針

| 議員氏名 | 調査結果・活用方策に対する考え方 |
|-------|---|
| 向山 憲稔 | <p><愛知県における中高一貫教育校について></p> <p>愛知県は中高一貫教育の導入方針として「チェンジ・メーカーを育てる」を掲げている。変化が激しく将来予測が難しい現代において、様々な人と協働しながら失敗を恐れずに課題にチャレンジして社会に変化を起こす「チェンジ・メーカー」になることが求められている、と記している。</p> <p>方針の通り、「SSH(スーパーサイエンスハイスクール)実施校」や「グローバル探求実施校」、「音楽科設置校」とタイプを分け、各学校における特色ある取り組みを目指している。例として、名古屋市にある明和高校は科学技術リーダーを育成、半田市にある半田高校は先進的分野に果敢に挑戦する人材を育成、津島市にある津島高校では国際バカロレアを踏まえた探求的な学びを実践するなど各学校のイメージを明確に打ち出している。</p> <p>山梨県とは人口及び予算規模、生徒数も大きく違うために、同様の取り組みを進めるには課題が多いと考えるが、国内外で活躍する人材を山梨県から輩出するためには、特色ある取り組みを展開する中高一貫校の必要性をあらためて感じた。</p> <p>私自身は、甲府市議会議員時代より、甲府市内への中高一貫教育の導入を本会議等で提言してきた。より深く、より幅広い良質な教育環境を提供することが、教育レベルの全体的な向上、そして移住定住の増加にもつながると考えている。</p> <p>施設や教員の確保など簡単なテーマではないが、山梨県をけん引する可能性を秘めた「チェンジ・メーカー」の育成のためにも、中高一貫教育の導入を引き続き県または市町村に提言していきたいと思う。</p> <p>加えて、愛知県では第二次導入校として地域の教育ニーズ対応校や高度ものづくり型中高一貫校を追加決定している。2026年4月の開校を目指しており、日進市にある日進高校では、不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校として、年間総授業時間数を低減できる「不登校特例校」を設置。外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校として既存の外国人生徒選抜実施校を中高一貫校として新たに定め、さらにAIやDXに関わる人材育成を目指す高度ものづくり型中高一貫校の設置も進めている。学校教育の分野においても多様性に柔軟に対応するべく、環境整備に取り組んでいる姿勢が良く理解できた。</p> <p>住んでいる地域や場所によって、教育格差が起きないよう、山梨県として多種多様な子どもたちのニーズにどのように応えていくべきか、今回の愛知県の事例を参考にしながら議会の立場から意見していきたい。</p> |

| 議員氏名 | 調査結果・活用方策に対する考え方 |
|-------|--|
| 向山 憲稔 | <p>＜愛知県における県立夜間中学の開校に向けて＞</p> <p>愛知県は、不登校経験者など多様な学習ニーズをもつ生徒にとって学びやすい高校として、全日制・昼間定時制・通信制の3課程を一つの学校内に置き、3課程間をフレキシブルに行き来して学べる新たなタイプの高校「フレキシブルハイスクール」の設置を目指している。担当者の説明によると、現状でも通信制に通う生徒数は「パンク状態」だといい、現状の定時制・通信制教育の“アップデート”を進める。既存の通信制校を適正規模にダウンサイジングするとともに、サテライト校や小規模の中間定時制・単位制を施設に余裕がある高校に地域バランスを考慮して設置する計画を進めている。</p> <p>そこに加えて、外国にルーツをもつ生徒に対応するべく、日本語を基礎から学べる夜間中学を新たに設置。外国人が多く居住する地区の夜間定時制高校に夜間中学を設置するべく取り組みを進めている。夜間定時制高校に夜間中学を設置するメリットとしては、給食の提供が可能、生徒が夜間中学日本語を学んだ後にスムーズに定時制高校への進学が可能なることを挙げている。「誰一人取り残さない、一人ひとりの個性を能力を思う存分伸ばせる、学びの実現」を掲げて来年4月の開校を目指している。</p> <p>山梨県においては、夜間中学の設置を検討して取り組みを進めているが、現状では具体的な計画は打ち出されていない。明確なビジョンとともに、段階的な計画を立てて夜間中学の設置を目指す愛知県の取り組みは大いに参考になった。人口規模が小さい山梨県においては、市町村に任せるのではなく、県としても積極的に関与していかなければ夜間中学の設置は難しいように感じている。県として愛知県をはじめとした他都市の事例を参照して、より良い形で「山梨モデル」の夜間中学が開校できるように助言、提言していきたい。</p> |

| 議員氏名 | 調査結果・活用方策に対する考え方 |
|-------|---|
| 向山 憲稔 | <p><名古屋市立夜間中学の開校に向けて></p> <p>単独校として2025年4月の開校を目指す名古屋市立夜間中学校について、担当者は「周知がうまくいっていない。まずは学校ができることを多くの方に知ってもらうことが大切」と話した。2023年3～4月に実施したニーズ調査でも有効回答数は91件であり、潜在的なニーズの把握に苦慮している様子がうかがえた。また、愛知県立夜間中学が設置される中で、の市立夜間中学の開校となるが、担当者は「上手にすみ分けができればいい」との回答であった。教職員の確保については、課題の一つとして認識しており、名古屋国際センターやボランティア団体やNPOとも連携・協力していきたいとのことだった。</p> <p>市立夜間中学設置基本計画において、「学校づくりの視点」として、①日本語や日本文化への不安に配慮、②生徒が継続して学校生活を送ることのできる環境に配慮、③教育相談体制の充実、④少人数指導の充実、⑤学習支援体制の充実、⑥ICTの活用、⑦キャリア教育の充実、という7つの視点を掲げている。これらの視点は、今後、山梨県が夜間中学設置を目指すにあたって同様に重要なテーマになるはずである。名古屋市の今後の取り組みに注目しつつ、山梨県での計画に生かせるよう議会でも提言していきたい。</p> <p>夜間中学の設置については、自身が山梨県議会議員になった当初から、委員会や本会議で取り上げているテーマである。山梨県教育委員会による取り組みが進まない状況が続いたが、国の動向も相まって、ようやく検討段階に入ったところである。他県の成功事例、または課題や問題点にも目を向けて、県内にあるニーズに応えられる学校となるように、議員の一人として今後とも活動していきたい。</p> |

| 議員氏名 | 調査結果・活用方策に対する考え方 |
|-------|--|
| 向山 憲稔 | <p><自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて></p> <p>名古屋市立山吹小学校の校長による説明、実際に授業に取り組む生徒たちの様子は、これまでの学校教育の在り方を再考するきっかけとなった。</p> <p>自由進度学習「山吹セレクトタイム(YST)」は子どもたち自らが計画した時間割に沿って一人ひとりが学習を進める。実際に授業の様子を見学させてもらったが、一人でパソコンに向かう児童、グループで議論する児童たち、または寝そべりながら友達と一緒に課題に取り組む児童など様々な様子が見られた。驚いたのは、誰一人として授業をさぼっている、勉強とはまったく別のことをやっている児童が見られなかったことだ。自らが目標を設定して、いつ何を、どうやって学ぶかを自分たちで選択しているからこそ、脱落する児童が少ないのかと感じた。</p> <p>山吹小の取り組みは、ドイツで始まった「イエナプラン教育」の要素が入っているという。イエナプラン教育は、異なる学年による学級を基本とした協働的な学習などの特徴を持つ教育で、名古屋市教育委員会のバックアップを受けながら取り組みを推し進めてきた。全国から視察が相次いでおり、そんな中で校長は「視察に来た方々と意見交換や交流の機会があり、その機会が山吹小の実践の前進につながった」とも話していた。</p> <p>また、印象に残ったのは、「私たちは『指導』から『支援』に教育の考え方を変えていった」という言葉だ。これまでの一斉授業は、子供たちの学習ペースが違うにも関わらず、単一的に授業が進められていた。その課題を解決する一つの手段が、山吹小が進めている個別学習、自由進度学習であり、子どもたちの学びを側面的に教職員が支援することが、子どもたちが自ら学ぶ姿勢を身に付けることにつながったのではないかと考える。</p> <p>個人的な感想では、山吹小の先進的な取り組みは、校長のリーダーシップと行動力、先見性によるものが大きいと感じた。今後の課題として、学校長や教職員が異動となった際に同じような授業形態、学校の取り組みが継続できるかだと思ふ。山梨県においては、25人学級など独自の取り組みを進めて、子どもたちのより良い学習環境の確保に努めている。一方で、山吹小のように子どもたち自らが考える力、個を育てる公教育がどの程度、実現できているのか、議会としても調査研究するべきと考える。学校規模や教職員のスキルアップなど、実際に山吹小のような取り組みは容易に実現できるものではないが、より特色ある学校教育が山梨発で展開されるよう、議会内外で意見提言していきたいと思ふ。</p> |

6 調査状況(写真)

写真 ○ R6年1月29日



(コメント)

愛知県教育委員会から、中高一貫教育と夜間中学設置について聞き取り(説明者:あいちの学び推進課 課長、中高一貫教育室 課長)

愛知県議会議会棟にて

写真 ○ R6年1月29日



(コメント)

名古屋市教育委員会から、夜間中学の概要について聞き取り(説明者 新しい学校推進室 室長、主任指導主事)

愛知県教育会館にて

写真 ○ R6年1月30日



(コメント)

左:山吹小学校で校長より説明を受ける

左下:授業中に教室内で自分のペースで学習する児童の様子を見学